

## 結果の概要 小学校算数

### 全体的な傾向

- 昨年度課題がみられた「数学的な考え方」などについての類似問題を出題した。その正答率を比較すると若干の改善がみられるものもあるが、依然として低い状況にある。
- 基本的な計算処理については、他の内容と比べて正答率が高い状況にある。
- 図や式を利用して、筋道をたてて説明する力に依然として課題がみられる。
- 用語や公式などを正しく理解したり、学習した内容を日常生活のことがらに当てはめて活用したりする力に依然として課題がみられる。

### 1 出題のねらい

- ①昨年度の課題を受け、数学的な考え方や自分の考えを表現する力をみるための問題を出題した。(第4・6学年)
- ②過去2年間出題できなかった小数の大きさ(第4学年)、加法(第4学年)、速さを求める(第6学年)問題を出題した。
- ③計算処理の理解度をみるために、計算過程についての問題を出題した。

### 2 学年別結果の概要

#### 【第4学年】

内容領域	正答率
3年「数と計算」	68.7%
4年「数と計算」	84.3%
3年「量と測定」	60.4%
3年「図形」	72.1%
4年「図形」	74.8%
3年「数量関係」	64.5%
4年「数量関係」	79.7%

#### 【第5学年】

内容領域	正答率
4年「数と計算」	68.5%
5年「数と計算」	65.4%
4年「量と測定」	68.4%
4年「図形」	72.6%
5年「図形」	80.7%
4年「数量関係」	70.4%

#### 【第6学年】

内容領域	正答率
5年「数と計算」	58.1%
6年「数と計算」	79.8%
5年「量と測定」	50.5%
6年「量と測定」	80.1%
5年「図形」	44.3%
5年「数量関係」	66.9%

評価の観点	正答率 (%)		
	4年	5年	6年
算数への関心・意欲・態度	75.0	65.5	54.9
数学的な考え方	61.3	67.0	50.7
数量や図形についての表現・処理	75.3	70.5	74.8
数量や図形についての知識・理解	79.4	72.3	69.3

### 3 今回のテスト結果からみた特徴

- 今年度初めて出題した小数の大きさ・加法(第4学年<sup>3</sup>、<sup>4</sup>)、速さを求める(第6学年<sup>14</sup>)問題については、高い正答率を示している。
- 計算の意味の理解(第5学年<sup>4</sup>(1))、場面や目的に応じた計算(第6学年<sup>12</sup>(2))に課題がみられる。
- 第4学年の「量と測定」において、はかりの目盛りを読み取る(第4学年<sup>9</sup>)、時計を見て経過時間を計算する(第4学年<sup>10</sup>)等、身近な数量について考える力に課題がみられる。
- 円周率は3.14で表すことができることや、三角形の内角の和が $180^\circ$ であることは定着しているが、円周率の意味の理解(第6学年<sup>15</sup>)や、内角の和を求める方法について説明する力(第6学年<sup>15</sup>)に課題がみられる。
- 第6学年において、前学年の学習内容についての理解や定着に課題のみられる問題(第6学年<sup>4</sup>、<sup>9</sup>)等)があり、指導の工夫改善が必要である。